

和歌山県の地震

令和4年7月

1. 和歌山県の地震活動

震央分布図	・・・・・・・・ 1
概況	・・・・・・・・ 1
断面図	・・・・・・・・ 2
和歌山県で震度1以上を観測した地震及び震度一覧	・・・・・・・・ 3
震度分布図	・・・・・・・・ 4

2. 地震一口メモ

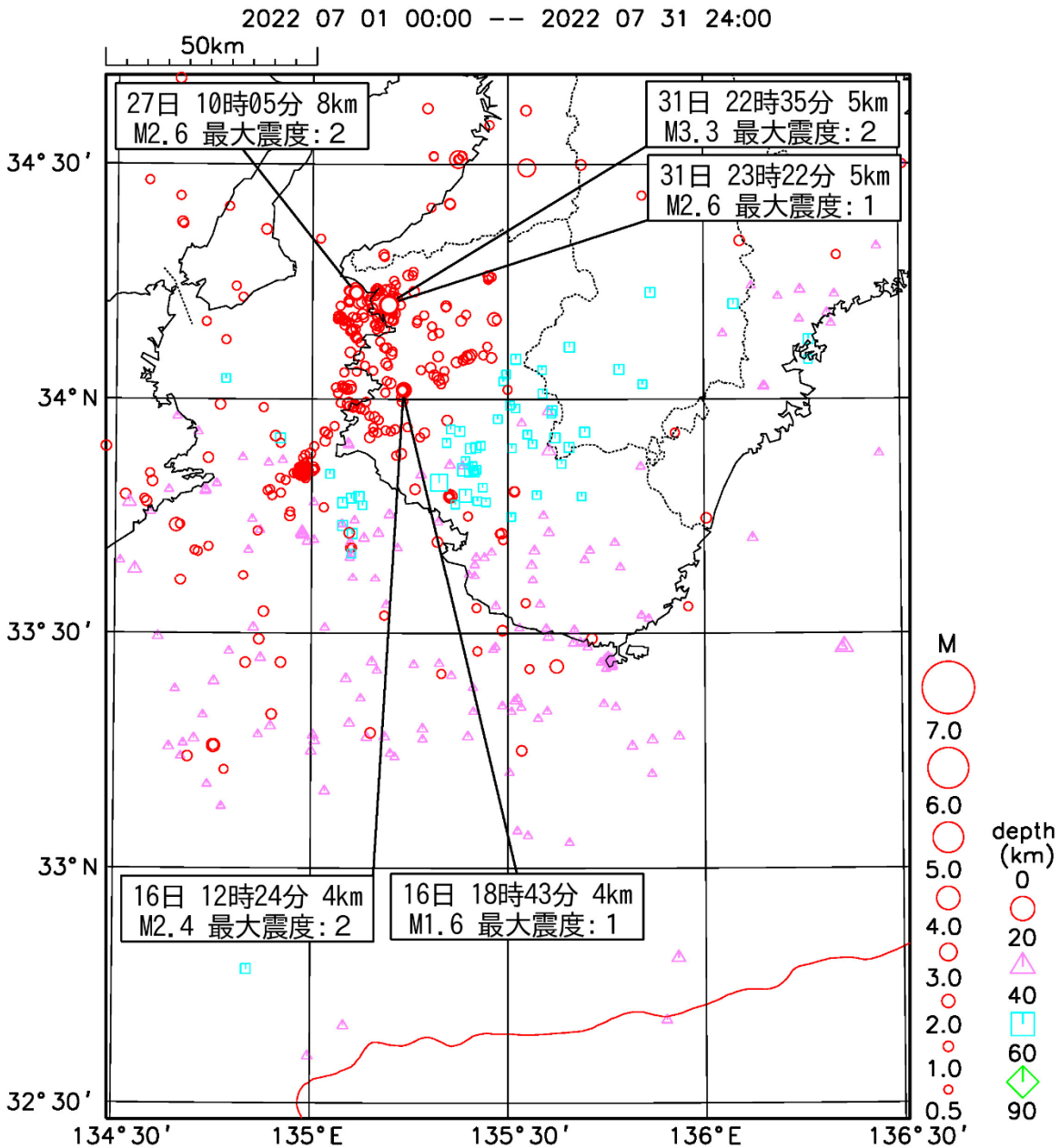
地震による津波の予測	・・・・・・・・ 6
------------	------------

- * この資料に使われている震源要素（北緯・東経）は、世界測地系に基づいています。
- * この資料の地震の震源要素は暫定値を使用しています。震度データを含めて再調査した後、修正することがあります。
- * 本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成しています。また、2016年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、米国大学間地震学研究連合（IRIS）の観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを用いて作成しています。
- * この資料に掲載した地図は、国土地理院の数値地図25000（行政界・海岸線）を使用しています。

和歌山地方気象台

1. 和歌山県の地震活動

【震央分布図】

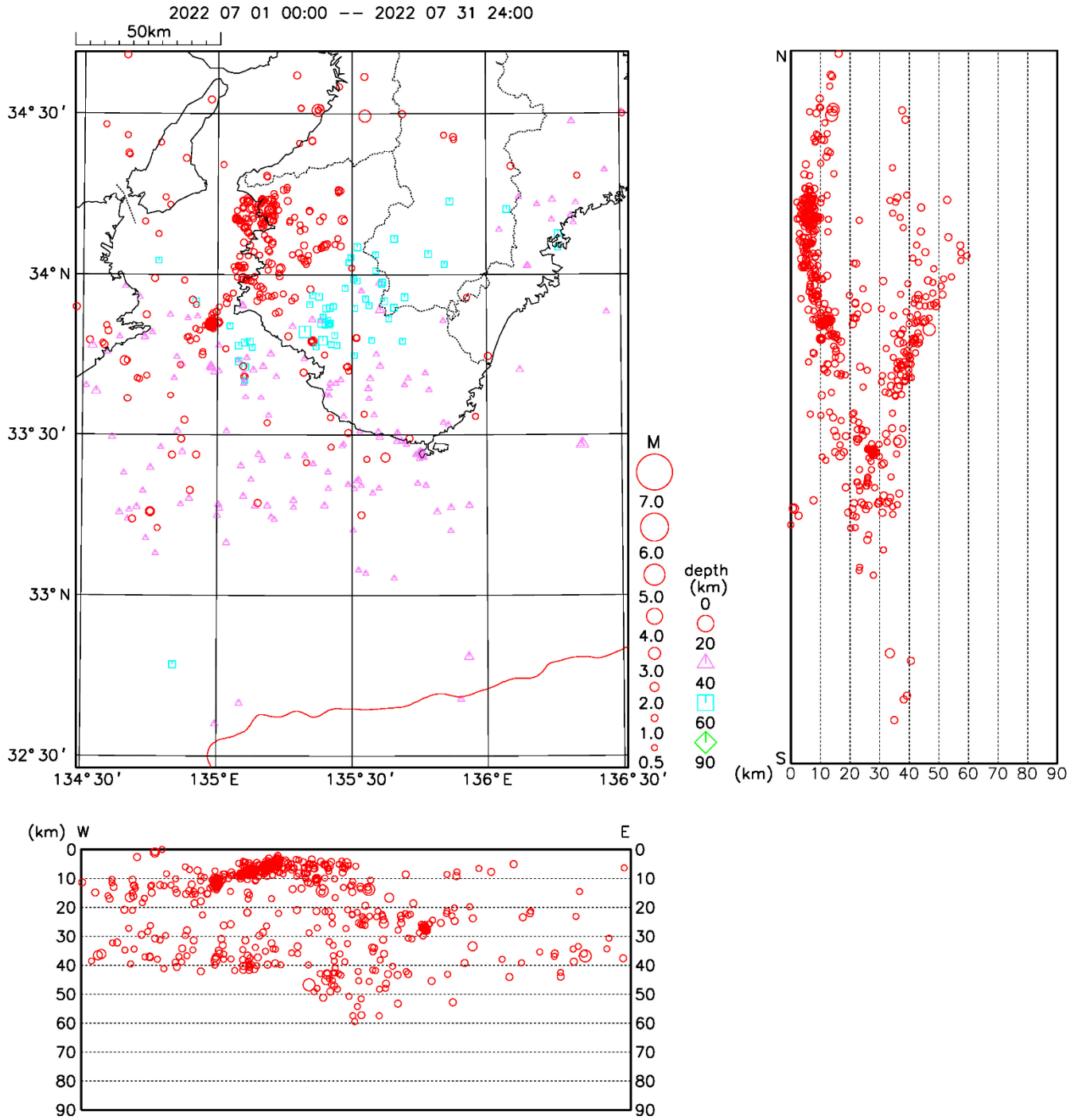


【概況】

7月の震央分布図内で震源決定した地震のうち、マグニチュード（M）2.0以上の地震は26回（前月は24回）でした。そのうち最も規模の大きかった地震は、31日22時35分 和歌山県北部の地震（深さ5km、M3.3）でした。この地震は地殻内で発生しました。

7月に和歌山県内で震度1以上を観測した地震は、5回（前月7回）でした。

【断面図】



【 和歌山県で震度1以上を観測した地震及び震度一覧 】

発震時（年月日時分）	震央地名	緯度	経度	深さ	マグニチュード
各地の震度（和歌山県内のみ掲載）					
2022年07月16日12時24分	和歌山県北部	34° 01.1' N	135° 14.0' E	4km	M2.4
和歌山県 震度 2：湯浅町青木*					
2022年07月16日18時43分	和歌山県北部	34° 01.1' N	135° 13.8' E	4km	M1.6
和歌山県 震度 1：湯浅町青木*					
2022年07月27日10時05分	紀伊水道	34° 13.6' N	135° 06.7' E	8km	M2.6
和歌山県 震度 2：和歌山市一番丁*					
震度 1：和歌山市男野芝丁					
2022年07月31日22時35分	和歌山県北部	34° 12.0' N	135° 11.7' E	5km	M3.3
和歌山県 震度 2：和歌山市男野芝丁, 和歌山市一番丁*					
震度 1：海南市下津*, 海南市南赤坂*, 有田市初島町*, 紀美野町下佐々*					
2022年07月31日23時22分	和歌山県北部	34° 12.0' N	135° 11.5' E	5km	M2.6
和歌山県 震度 1：和歌山市男野芝丁, 和歌山市一番丁*					

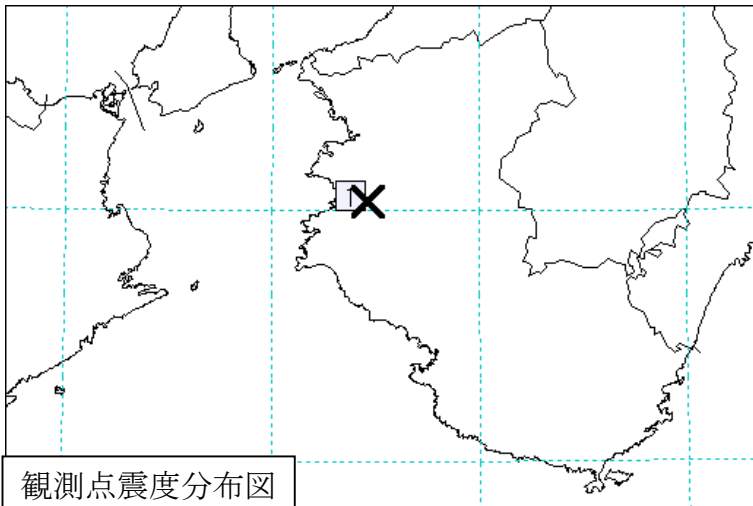
名の最後に*のついている地点は、和歌山県または国立研究開発法人防災科学技術研究所の震度観測点です。

【震度分布図（図中の×は震央）】

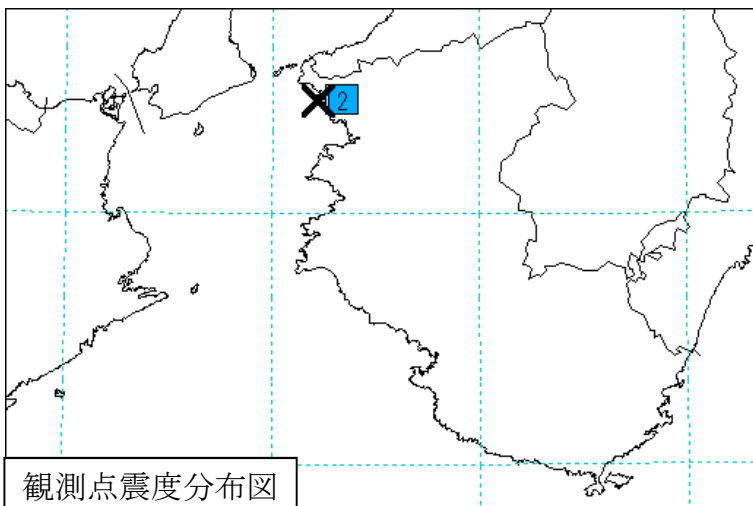
2022年07月16日12時24分 和歌山県北部の地震（深さ4km、M2.4）



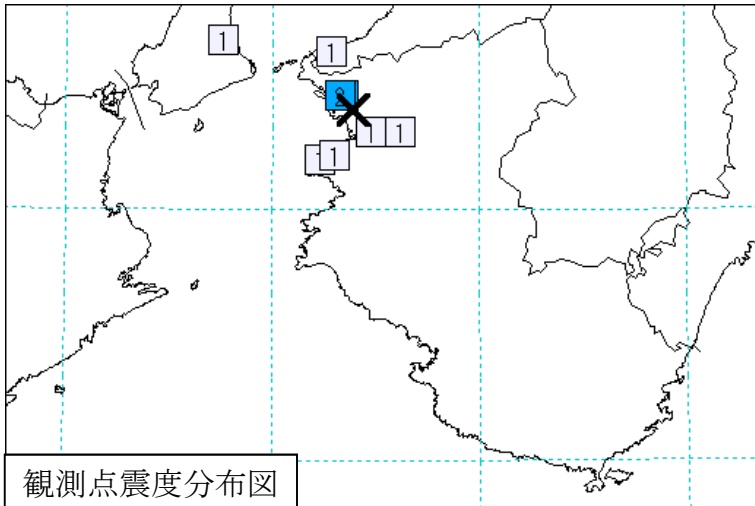
2022年07月16日18時43分 和歌山県北部の地震（深さ4km、M1.6）



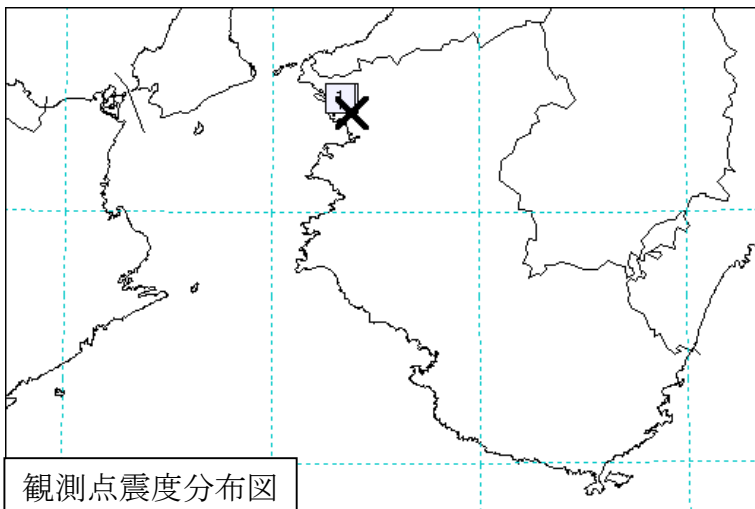
2022年07月27日10時05分 紀伊水道の地震（深さ8km、M2.6）



2022年07月31日22時35分 和歌山県北部の地震（深さ5km、M3.3）



2022年07月31日23時22分 和歌山県北部の地震（深さ5km、M2.6）



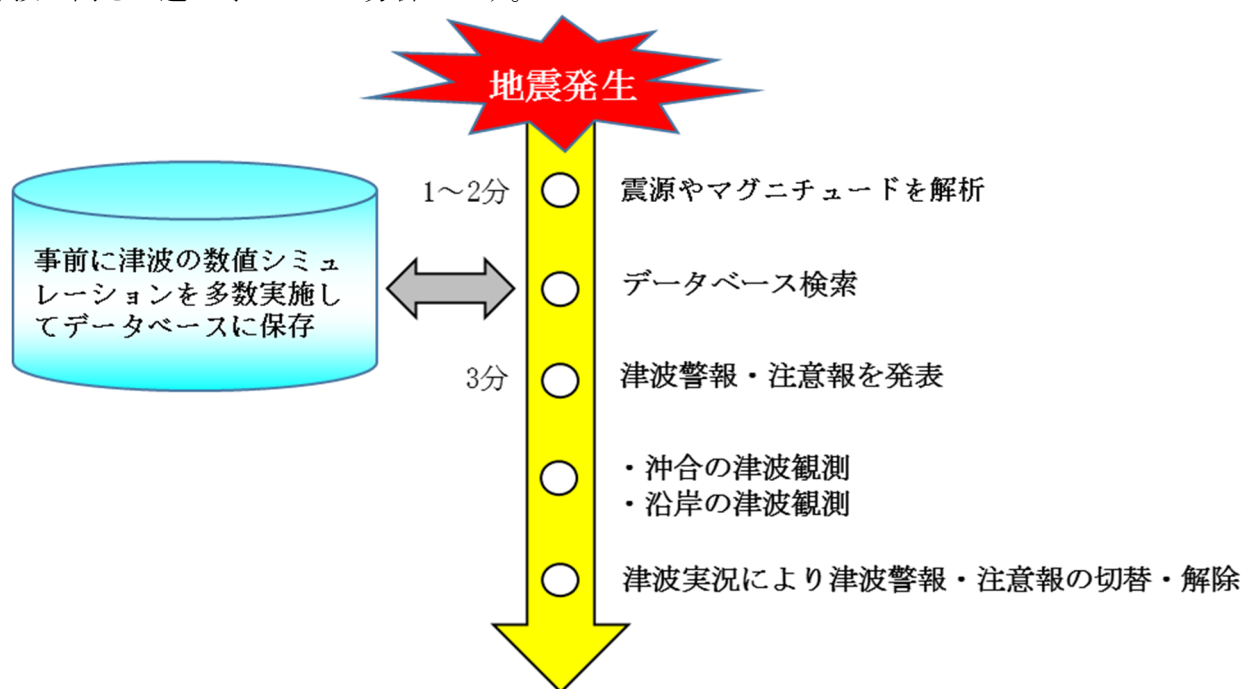
2. 地震一口メモ

地震による津波の予測

日本周辺では、大きな地震が沿岸近くで発生することもあります。その場合、津波は地震発生後すぐに日本沿岸に來襲しますので、大津波警報・津波警報・津波注意報（津波警報等）を直ちに発表する必要があります。

しかし、コンピューターによるシミュレーション計算は時間がかかり、地震が起きてから計算を始めても間に合いません。そのため、気象庁では、地震の発生場所と規模により、いつ・どこに・どのくらいの津波が來襲するか、さまざまなパターンであらかじめ計算しておき、データベース化しています。実際に地震が発生したときには、適切な条件の計算結果をデータベースから引き出し、そのデータをもとに津波警報等を迅速に発表します。その後、実際に観測された津波実況により、津波警報等を切替えたり解除したりすることがあります。

また、気象庁は、発表した津波警報や注意報について評価を実施し、予測と実際に観測された津波の高さの違い等について分析します。



なお、地震以外にも火山現象等により津波が発生することもあります。このような津波の場合でも、気象庁は津波警報等を発表します。

ただし、津波の原因となる火山現象等を覚知できないこともあります。現象を覚知できたとしても、津波が沿岸に到達する前に予想して津波警報等を発表することは極めて困難で、通常は津波が観測されてからその状況により津波警報等を発表することになります。さらにその内容は随時切替えることがあります。

気象庁ホームページ

- ホーム>知識・解説>津波を予測するしくみ

<https://www.data.jma.go.jp/eqev/data/tsunami/ryoteki.html>

- ホーム>各種データ・資料>発表した津波警報・注意報の検証

<https://www.data.jma.go.jp/eqev/data/tsunamihyoka/>

- ホーム>知識・解説>地震や火山現象等に伴い発生する津波

https://www.data.jma.go.jp/eqev/data/tsunami/various_causes.html